

10月28日(火)午後7時 解禁

平成26年10月28日

【照会先】

国立社会保障・人口問題研究所

社会保障応用分析研究部 部長 阿部彩

(電話) 03(3595)2984

## 『不況の中の子どもたち:先進諸国における経済危機が子どもの幸福度に及ぼす影響 日本解説版』を公表 ～経済危機前後では日本の子どもの状況は改善～

国立社会保障・人口問題研究所は、このほど、ユニセフの研究機関であるイノチェンティ研究所（イタリア・フィレンツェ）との共著『レポートカード12 不況の中の子ども：経済危機の子どもへの影響』（英文）を取りまとめました。レポートカード12の和訳に先立って、日本についての解説版を作成しましたので、公表いたします。

イノチェンティ研究所では、2000年から毎年、『先進国の子どもに関する国際比較報告書』を刊行しています。国立社会保障・人口問題研究所は、『レポートカード10』よりイノチェンティ研究所と共同で日本の子どものデータの提供、日本についての特別編集版の作成を行っており、平成25年12月には、『レポートカード11 先進国における子どもの幸福度』を公表しました。今回公表される『レポートカード12』は、リーマン・ショックを発端とした世界的な経済危機の前後において、先進国の子どもの状況がどのように変化したのかを分析したものです。報告書の和訳版は11月に公表される予定ですが、英語版の公表を機に『日本解説版』を日本ユニセフ協会のご協力を得て作成いたしました。

今回のレポートは、子どもの状況を示す三つの指標について、経済危機前後（2007年から2011～13年）にどのように変化したか、その変化の方向と大きさについて、先進国41カ国の順位づけを行っており、経済危機がどのように子どもに影響したのか、また、その影響を子どもに及ぼさないために各国がどのような政策をとったのかをまとめたものです。

### 【集計結果のポイント】

- 子どもの固定貧困率 …… 2008年の21.7%に対し、2012年(注1)では19.0%と2.7%の減少。貧困率の改善度は、高いほうから10番目。しかし、固定貧困率の値は19番目であり、41カ国中、中位。(注1)調査年。貧困率はその前年のものなので、2007年と2011年。
- ニート率 …… 2007年の8.5%に対し、2012年では6.9%と、1.6%の減少。日本は、経済危機前後にニート率が減少した6カ国のうちのひとつ。
- 人々の生活意識 …… 2007年から2013年にかけて「過去12か月の間に、ご自身、またはあなたのご家族に必要な食料品購入のためのお金が十分になかったことがありますか」「昨日今日、1日の多くの時間にあなたはストレスを感じていましたか」「あなたは、最も理想的な生活(10)から最悪の生活(0)のどこに立っていると感じていますか」「(ご自分の国)の子供の多くは、毎日、学び、成長する機会を持っていますか」の4つの質問のうち、3つで回答状況が改善。
- 多くの先進諸国において、経済危機を挟んで、子どもの状況が悪化している中、日本は比較的に子どもの状況が改善されている国のひとつ。
- 貧困ギャップが増加しており、貧困である子どもの深刻度は悪化。